

FUKAYA News Release

市長定例記者会見次第

平成24年 8月27日(月)
午前10時30分～11時30分

1. あいさつ

2. 発表内容

ページ

- | | |
|-------------------------------|---|
| (1) 「ステップアップレッスン」 | 1 |
| (2) 「聴覚障害者災害時援助用バンダナの作成および配布」 | 3 |
| (3) 「読書講演会」 | 4 |

3. 次回日程 定例記者会見

会場：市長公室

日時：平成24年9月27日(木) 午前10時30分～11時30分

中学生を対象に実施する補習学習 「ステップアップレッスン」の実施

■ 趣旨

- ・進路決定を控えた中学３年生の中で、塾に通っていない生徒や、学習に不安を感じている生徒を中心に、補習学習を実施し、学力を保障します。
- ・深谷市教育委員会が学校と一体となって実施する「学力向上に向けた取組」の一環として実施します。

■ 対象者

- ・市内中学校３年生で、塾に通っておらず、学習に不安を感じている生徒を中心に実施します。
- ・上記に該当しなくても、特に希望のある場合は参加することができます。

■ 内容

- ・数学、英語を中心とした基礎学力向上のための学習とします。

■ 期間及び回数

- ・平成２４年９月から平成２５年２月まで
- ・週１回から２回程度
- ・放課後 １時間程度

※上記項目については、学校の実態に応じて変更することができます。

■ 大学生ボランティアの配置

- ・教育委員会が居住地を考慮して調整し、配置を決定します。

■ 問い合わせ先

深谷市 教育委員会 学校教育課

TEL 048-572-9578

FAX 048-574-1744

深谷市『学力向上』への取組

平成24年度 深谷市教育委員会

学校

- 学校の課題改善に向けた取組を支援
- 児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導

- 国際感覚豊かなグローバル人材の育成
- 理数教育の充実



深谷市教育振興基本計画（H24～29） 立志と忠恕の深谷教育プラン

基本理念「立志と忠恕の深谷教育」～ぶるさとを愛し、夢をもち志高く生きる～

基本目標1「社会を生き抜く力の育成」

未来を切り拓くための確かな学力の育成

聴覚障害者災害時援助用バンダナの作成及び配布について

■ 目的等

地震などの災害が起きた際に、聴覚障害者が周囲からの手助けを受けやすくすることや、情報不足に陥らないように支援体制を構築します。また、聴覚障害者が安心した生活を送る一助となるよう「聴覚障害者災害時援助用バンダナ」を作成し希望者に無料で配布します。

■ 日時

平成24年9月5日（水）聴覚障害者福祉協会会長及び手話サークル代表者に市長公室において「贈呈式」を実施。

9月6日（木）以降、希望者に配布

■ 配布場所

深谷市役所障害福祉課・各総合支所市民生活課・深谷市社会福祉協議会

■ 概要

聴覚障害者等は防災行政無線等が聞こえにくく、外見では聴覚に障害があると判断できないため、周囲の手助けが遅れたり、避難所等で情報不足に陥りがちであることから、「自分が聴覚障害者であること又は言葉が聞こえにくい等」について、誰もがひと目で確認できる仕組みが必要です。また、聴覚障害者との手話通訳ができる方についても、同様に確認できる仕組みが必要です。

以上の目的を達成するため、バンダナには、「耳がきこえません」「手話ができます」と対角コーナーに表示されており、利用目的によって折りたたむ向きを変え、首に巻いたり衣服に装着させたりして使用できます。

■ その他

配布対象者

聴覚障害者及び聞こえにくい方のうち希望者。

（市内在住・在勤・在学者）

深谷市手話通訳登録者

■ 問い合わせ先

深谷市総務部自治防災課（内線 2032・2034）

深谷市福祉健康部障害福祉課（内線 3332・3339）

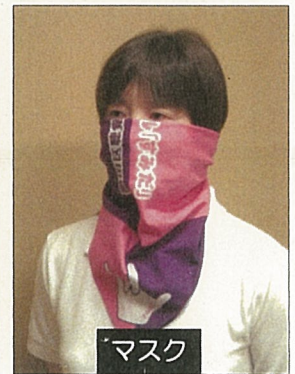
電話 048-571-1211（代表）

バンダナ活用法

『耳がきこえない』ということは、見た目ではわかりません。特に災害時では、情報が届かないことや、手話や筆談でのコミュニケーションが必要なことを、自らアピールしていくことも大切です。また、『手話や筆談での支援ができる』『聴覚障害者への理解を持っている』健聴者の目印にもなるように、最も目立つ色で、聴覚障害者・健聴者共に使用できるデザインにしました。是非このバンダナを日頃から携帯していただき、困った時に活用して頂けたらと思います。



三角巾として（聴覚障害者用）



マスク



三角巾として（支援者用）



バッグ

バンダナはちょっとした防寒対策や、手ぬぐいとしての機能はもちろん、ケガをした時の止血・副木の固定・包帯や、髪留め、アイマスク、旗など…無限の活用方法があります。災害はいつどこで起きるかわかりませんので、いつもバッグに1枚入れておくことをお勧めします。

読書講演会

■ 目的等

読書に親しむきっかけとして、主に県内在住の作家や編集者、文学者などの活動や作品を、市民に知らせるための事業です。

■ 日時

平成24年10月13日（土）午後1時30分～3時00分

■ 場所

市立図書館3階 郷土資料展示室

■ 概要

講師はモンゴル出身の絵本作家・イラストレーターのバーサンスレン・ボロルマー氏（経歴は別紙参照）。2010年に刊行された絵本「お月さまにいるのはだあれ？」は、本の前後から、それぞれ日本とモンゴルのお話が始まり、中央で合体する構成となっており、斬新な試みとして注目されました。

今回は故国モンゴルについて（生活の様子、子どもたちの遊びなど）、自身の著作についてお話しいただく予定です。

■ その他

市内在住、在学、在勤者を対象として募集人数は50名（先着順）。参加料は無料。申込受付は9月19日（水）午前9時より、深谷市立図書館のカウンターまたは電話で受け付けます。

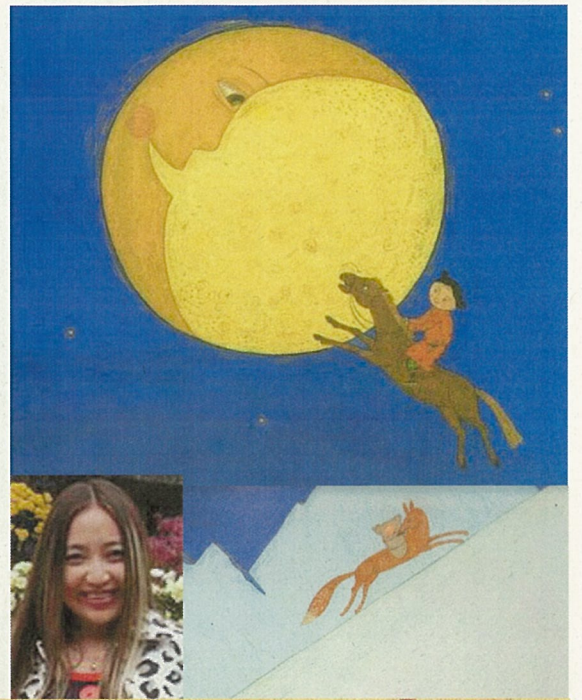
■ 問い合わせ先

深谷市立図書館 048（571）8210

平成二十四年度 深谷市立図書館主催事業

読書講演会

「バーサンスレン・ボロルマーさんをお迎えして」



日時 平成二十四年一〇月二三日（土）

午後一時三〇分～

会場 深谷市立図書館 郷土資料展示室

（深谷市仲町一九番三号）

※観覧希望の方は、九月一九日（水）午前九時より、お電話または市立図書館カウンターにてお申込みください（先着五〇名）

TEL 〇四八（五七二）八二二〇

バーサンスレン・ボロルマー [Baasansuren Bolormaa] 氏の略歴

1982 年 7 月 25 日生まれ。モンゴル国ウランバートル出身。女性。幼いころから絵が好きで、同居する祖母が語ってくれた民話に、絵を付けて遊んでいた彼女を見た母親のすすめで、4 歳で地元の絵画教室で絵を習い始める。9 歳のとき、『わたしが知っている日本』という絵のコンクールで優勝、福岡県内で 1 ヶ月のホームステイを体験する。この時から、日本との縁が生まれた。

その後、モンゴル児童文学の第一人者、ダシドンドグ氏の児童書や教科書の挿絵を描き、本格的に画家の道を志す。モンゴル文化芸術大学美術学部に入學。ここで共同制作者であり、夫君であるイチンノロブ・ガンバートル氏と出会う。同大学在学中、イタリアの夏季奨学金プログラムやモスクワのシンポジウムに参加してイラストレーションを学ぶ。

2004 年、第 19 回国民文化祭上陽町絵本大会において『モンゴルの黒い髪』がグランプリを、同年、第 14 回野間国際絵本原画コンクールにおいて『ぼくのうちはゲル』がグランプリを受賞している。

2008 年、文教大学教育学部美術専修研究生として来日。同年、第 1 回家族のきずな絵本コンテストでは『白い心』が優秀賞を、2009 年、第 10 回ピンポイント絵本コンペでは『フレンのおはなし』が優秀賞を受賞した。なお、この 2 作は文章をイチンノロブ・ガンバートル氏が執筆している。

2011 年 3 月、同大学を修了。現在は埼玉県越谷市に在住し、絵本作家、イラストレーターとして活動中。

主な作品は、単著として『モンゴルの黒い髪』『ぼくのうちはゲル』（石風社）、ガンバートル氏の共著として『おかあさんとわるいキツネ』『センジのあたらしいいえ』（福音館書店）、『バートルのこころのはな』（小学館）などがある。日本とモンゴルを舞台とする 2 つの物語を融合させた絵本『お月さまにいろのはだあれ？』が話題となった。